

平成 26 年 3 月臨時教育委員会

太良高等学校の再編に係る検証報告 I

平成 26 年 3 月 24 日

県立高校再編整備推進室
教 育 政 策 課
学 校 教 育 課

| 目次 | 頁 |
|------------------|----|
| I 検証の目的 | 1 |
| II 検証する事項及び検証の視点 | 1 |
| III 検証結果 | 1 |
| 1 教育機会の拡大 | 1 |
| 2 確かな学力 | 6 |
| 3 進路指導の取組 | 7 |
| 4 多様な学び | 9 |
| 5 地域との連携 | 9 |
| IV 検証のまとめ | 13 |

I 検証の目的

太良高校の再編の目的や目指す学校像等を踏まえ、これまでの取組を検証することにより、成果や課題を明らかにするとともに、今後の本県における高等学校教育の振興に資することを目的とする。

II 検証する事項及び検証の視点

| 検証する事項 | 検証の視点 |
|-----------|----------------------------|
| 1 教育機会の拡大 | 志願状況、入学状況、在籍状況 |
| 2 確かな学力 | I C T教育、少人数学習、学び直し教育、学力の変化 |
| 3 進路指導の取組 | 特色あるキャリア教育、卒業後の進路状況 |
| 4 多様な学び | 単位制、多様な単位認定 |
| 5 地域との連携 | 体験学習、通学支援 |

III 検証結果

1 教育機会の拡大

(1) 現状

① 太良高校の志願状況

ア 学校全体の志願状況

学校全体の志願状況は、再編前と比べ、志願倍率は上がり、平成 24 年度以降は募集定員を上回っていたが、平成 26 年度は西部学区枠の志願者が少なかったため、募集定員を下回った。

イ 募集枠別の状況

○ 全県募集枠

再編初年度である平成 23 年度を除き、募集定員を満たしている。また、9 月予備調査段階から志願する生徒が増えている。

○ 西部学区枠

再編前に比べ、一般選抜の志願倍率は上がっているが、平成 26 年度は再編後初めて定員割れとなった。

《太良高校志願倍率推移》

| | H19 年度 入試 | H20 年度 入試 | H21 年度 入試 | H22 年度 入試 | H23年度入試 | | | H24年度入試 | | | H25年度入試 | | | H26年度入試 | | |
|----------------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|---------------|---------------|----------|---------------|---------------|----------|---------------|---------------|----------|---------------|---------------|----------|
| | | | | | 全県 募集 枠 | 西部 学区 枠 | 学校 全体 | 全県 募集 枠 | 西部 学区 枠 | 学校 全体 | 全県 募集 枠 | 西部 学区 枠 | 学校 全体 | 全県 募集 枠 | 西部 学区 枠 | 学校 全体 |
| 募集定員 (人) | 80 | 80 | 80 | 80 | 40 | 40 | 80 | 40 | 40 | 80 | 40 | 40 | 80 | 40 | 40 | 80 |
| 9月 予備調査 | 0.28 | 0.38 | 0.94 | 0.36 | 0.53 | 0.50 | 0.51 | 0.93 | 0.58 | 0.75 | 0.90 | 0.58 | 0.74 | 1.03 | 0.50 | 0.76 |
| 11月 予備調査 | 0.59 | 0.49 | 0.49 | 0.34 | 0.53 | 0.63 | 0.58 | 1.13 | 0.58 | 0.85 | 0.95 | 0.53 | 0.74 | 1.03 | 0.48 | 0.75 |
| 一般選抜 (H23年度まで は後期試験) | 0.88 | 0.90 | 0.57 | 0.47 | 0.95 | 1.00 | 0.98 | 1.33 | 1.06 | 1.20 | 1.20 | 1.08 | 1.14 | 1.00 | 0.75 | 0.89 |

※ 網掛けは、志願倍率が 1 倍未満

太良高校の入学状況は、次のとおりとなっている。

(単位:人)

| | 募集定員総数 | | 入学者数 | | | | | | |
|---------------|--------|-----------|-----------|----|-----------|-----------|-----------|------------|------------|
| | | 西部 学区枠 | 全県 募集枠 | | 西部 学区枠 | 全県 募集枠 | うち 不登校 | うち 発達障害 | うち 中途退学 |
| 平成21年度 入学者 | 80 | | | 64 | | | | | |
| 平成22年度 入学者 | 80 | | | 54 | | | | | |
| 平成23年度 入学者 | 80 | 40 | 40 | 64 | 34 | 30 | 18 | 7 | 5 |
| 平成24年度 入学者 | 80 | 40 | 40 | 74 | 38 | 36 | 19 | 14 | 3 |
| 平成25年度 入学者 | 80 | 40 | 40 | 73 | 36 | 37 | 26 | 11 | 0 |

② 全県募集枠の受験資格別の進路状況

ア 不登校経験のある生徒

再編の前後で比較すると、太良高校再編と同時期に佐賀星生学園（佐賀市）が開校したこともあって、専修学校への進学率が大幅に上昇し、全日制高校への進学率は、若干の上昇となっているが、その中で太良高校を含めた県内公立高校への進学割合は高くなっている。

《本県の不登校経験のある生徒の高校進学状況》

| | | |
|---|---|--|
| H22.3月卒(対象生徒289人) 高校(定時制・通信制含む)進学率 67.5% 全日制高校進学率 43.6% 県内公立高校進学率 11.8% うち太良高校 2.8% 定時制高校進学率 9.7% 通信制高校進学率 14.2% | ➡ | H25.3月卒(対象生徒264人) 高校(定時制・通信制含む)進学率 58.7% 全日制高校進学率 45.8% 県内公立高校進学率 20.5% うち太良高校 9.1% 定時制高校進学率 3.8% 通信制高校進学率 9.1% |
| 専修学校等への進学率 1.7% | | 専修学校等への進学率 8.7% うち星生学園 5.3% |

【参考】

【文部科学省調査による不登校経験のある中学生の進学】

「不登校に関する実態調査」(平成5年度不登校生徒追跡調査報告書)(H13.9.12通知)


高校等(定時制・通信制・特別支援・高専を含む)進学率 65.3%
 全日制高校進学率 30.0%

イ 発達障害のある生徒

平成 20 年度に実施した調査では、発達障害のある生徒の約 70%は、全日制高校へ進学していた。本年度実施した調査でも、同様の結果となっており、顕著な上昇はみられなかった。

しかしながら、対象となる生徒が増加傾向にあることから、全日制への進学者数も増加している。

《本県の発達障害やその傾向のある生徒の高校進学状況》

| | | |
|---|---|---|
| H20.3月卒(対象生徒176人) 高校(定時制・通信制含む)進学率 81.8% 全日制高校進学率 73.9% (県内全日制高校進学率 63.6%) 太良高校への進学者(データなし) |  | H25.3月卒(対象生徒242人) 高校(定時制・通信制含む)進学率 78.5% 全日制高校進学率 71.5% (県内全日制高校進学率 64.5%) 太良高校への進学者 5.4% |
|---|---|---|

【参考】

【文部科学省分析・推計による発達障害等困難のある中学生の進学】

「高等学校における特別支援教育の推進について」(H21.8.27報告)

高校進学率 約75.7%(H21.3月卒)

ウ 高校中途退学者

再編初年度の平成 23 年度は、太良高校に 5 人入学したが、その後、減少傾向にあり、平成 25 年度は、入学者がいなかった。

また、高校中途退学者の編入学の全国調査の結果を見ると、通信制のニーズが高いと考えられる。

全国の高校中途退学者の編入学の状況(H24年度)

| | 全日制 | 定時制 | 通信制 | 合計 |
|----------|-----|-------|-------|-------|
| 編入学者数(人) | 472 | 1,075 | 4,693 | 6,240 |
| (%) | 7.6 | 17.2 | 75.2 | |

③ 太良高校の在籍状況

ア 全体及び募集枠別の状況

再編前に比べて中途退学者等が増えている傾向があり、全県募集枠の応募資格ごとに分析をすることとする。

(単位:人)

| | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 卒業生 |
|----------|-----|-----|-----|-----|
| H21年度入学生 | 65 | 63 | 59 | 59 |
| H22年度入学生 | 54 | 51 | 47 | 45 |
| H23年度入学生 | 64 | 52 | 43 | 40 |
| うち全県募集枠 | 30 | 23 | 18 | 16 |
| うち西部学区枠 | 34 | 29 | 25 | 24 |
| H24年度入学生 | 76 | 68 | | |
| うち全県募集枠 | 38 | 32 | | |
| うち西部学区枠 | 38 | 36 | | |
| H25年度入学生 | 74 | | | |
| うち全県募集枠 | 38 | | | |
| うち西部学区枠 | 36 | | | |

※ 各年5.1現在の在籍者数を示す。

イ 平成 23 年度入学生全県募集枠の応募資格ごとの状況

○ 不登校経験のある生徒

中途退学率については、転学まで含めた転退学率でみると、他の全日制高校へ進学した不登校生徒の状況と大きな差はない。

太良高校の全県募集枠は、入学選抜に「出欠の記録」を資料としないため、他の全日制高校進学者より、中学時の不登校日数が多い生徒が多い。平成 26 年 3 月卒業者の中には、中学時の欠席日数については 1 年間の欠席日数が 100 日を超える生徒も複数いる。しかし、これらの生徒の太良高校入学後の出席状況は良好で、1 年間欠席なしという生徒も多かった。

【太良高校の中学時不登校経験のある生徒の転退学率】(H23年度入学生) 対象生徒18人
中途退学率27.8% 転学率5.6% ⇒ 転退学率 33.3%

【本県の中学時不登校経験のある高校生の転退学率】(H23年度入学生) 対象生徒97人
・ 全日制(太良高校除く)
 中途退学率15.5% 転学率15.5% ⇒ 転退学率 30.9%
・ 定時制
 中途退学率32.8% 転学率1.7% ⇒ 転退学率 34.5%

【参考】

【文部科学省調査による中学時不登校経験者の高校中途退学率】 38%
(「不登校に関する実態調査」(平成5年度不登校生徒追跡調査報告書))
(H13.9.12通知)

【参考 太良高校全県募集枠不登校経験のある生徒 出欠状況】

| | 中学時 欠席日数平均 | | | 高校時 欠席日数平均 | | |
|---------|------------|------|------|------------|------|------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 1年次 | 2年次 | 3年次 |
| 卒業生グループ | 65.8 | 91.3 | 82.0 | 5.9 | 17.8 | 28.0 |

※ 1年次は対象生徒8人のうち6人が欠席0
2, 3年次の欠席0の生徒はそれぞれ1人ずつ

○ 発達障害のある生徒

中途退学や進路変更する率は、極めて低く、これは他の全日制高校と同様である。

| |
|---|
| 【太良高校の発達障害のある生徒の転退学率】(H23年度入学生)対象生徒7人 中途退学率 0.0% 転学率0.0% ⇒ 転退学率 0.0% |
|---|

| |
|---|
| 【本県の発達障害やその傾向のある高校生の転退学率】(H23年度入学生) 対象生徒20人 ・ 全日制(太良高校除く) 中途退学率0.0% 転学率0.0% ⇒ 転退学率 0.0% |
|---|

○ 高校中途退学者

中途退学率は極めて高く、高校中途退学者が高校生活を継続することの難しさを示す結果となった。

| |
|--|
| 【太良高校の高校中途退学者の転退学率】(H23年度入学生)対象生徒5人 中途退学率80.0% 転学率0.0% ⇒ 転退学率 80.0% |
|--|

※ なお、参考として、本県の県立高校全体及び全国の公私立高校の中途退学率を下に示す。

| | |
|-----------------------|------|
| 【参考】 | |
| 【本県の県立高校中退率】(H24年度) | 0.9% |
| (内訳) | |
| ・ 全日制 | 0.8% |
| ・ 定時制 | 8.9% |
| 【全国の国公私立高校中退率】(H24年度) | 1.5% |

(2) 成果と課題

① 成果

- 教育機会の拡大については、不登校経験のある生徒の県内公立高校への進学率が高くなっていることから、進学先の選択幅の拡大につながっていると一定の評価をしている。
- 在籍状況についても、不登校経験のある生徒の中途退学者等が多かったが、中学校時の不登校の状況を考えれば、県内の他の全日制高校と大きな差がなかったことは評価できるのではないかと考える。

② 課題

- 発達障害や高校中途退学者に係る教育機会の拡大については、現時点では、過去の状況との比較がしづらいため、今後の推移をみていく必要があると思われる。検証を確かなものにするためには、太良高校への志願、入学状況、応募資格のある中学生や高校中途退学者の進路状況や在籍状況について経年変化を分析するなど、検証を継続する必要がある。
- 高校中途退学者については、転退学率が高く、改めて指導の難しさを示す結果となった。高校中途退学者への教育機会の拡大については、全日制と併せて、定時制や通信制についても検討する必要があると思われる。

- 不登校経験や発達障害のある生徒の全日制高校への進学を考えると、これらの生徒に対する教育機会の拡大を図ることができるものと考えられるので、太良高校の教育の成果を他校に広めることについて、検討する必要がある。

2 確かな学力

(1) 現状

① ICT教育

太良高校では、生徒が一人ひとりが「わかる」「できる」を実感できるよう、また、発達障害のある生徒にICT教育が有効であるという報告もあったことから、県内でもいち早くICT教育に取り組んだ。

ア 電子黒板

電子黒板は再編前の平成21年度から導入し、授業研究会を実施するなどして、指導法の研究を重ね、効果的に活用している。

イ ニンテンドーDS

小テストの実施や辞書機能活用等、授業に活用し、学び直しにも効果があると報告を受けている。また、平成26年度からは、他の県立高校と同様に、学習者用PCを使用することとしている。

ウ eラーニング

校内や自宅のパソコン、スマートフォンでも使えるeラーニングは、学び直しに役立っている。

② 少人数学習

全県募集枠の1年次は、様々な課題や特性をもった生徒が、新しい環境になじめるよう、また、新たな人間関係に適応し、基本的な生活習慣の定着を図れるよう、40人の定員を2クラスに分け、少人数での教育を実施している。

西部学区枠の1年次は、再編前と同様に40人で1クラスとしているが、2年次は、学区区分によらない学級編制を行っており、その際には少人数学級編制を導入し、3クラス編制としており、きめ細かな指導が可能になっている。

③ 学び直し（リメディアル）教育

eラーニングやニンテンドーDSについては前述のとおりだが、学び直しのための選択科目を1年次に設定しており、1/3～1/2の生徒が選択している。

④ 学力の変化

発達障害のある生徒の特性に配慮した教室の整備は、発達障害のない生徒にとっても、学習しやすいユニバーサルデザインの環境であり、学び直しの教科設定や単位制を導入したことで、個々の生徒の学びを助けたと思われる。

(2) 成果と課題

① 成果

学び直しの機会を設けることで、基礎学力が定着するとともに、学習に対する意欲向上にもつながっていると思われる。

また、学力面で課題を抱えたり、発達障害という特性を持つ生徒に対応するための、教育課程上の工夫や教育環境の整備等は、結果として全ての生徒の学力向上に有効であったと考える。

学力の変化については客観的なデータを揃えることが難しいが、進路状況等を見ると、学力だけではなく、社会に適応する力も備わったものとする。

② 課題

一定の成果はあったものの、客観的なデータが不足しており、今後も継続的に検証に取り組む必要がある。

3 進路指導の取組

(1) 現状

① 特色あるキャリア教育

ア 学生支援員によるソーシャルスキルモデラーの試験的配置

発達障害のある生徒は、一般的にコミュニケーションが苦手であり、将来的な自立のためには、ソーシャルスキル（社会技能）を身につけるためのトレーニングの実施が有効である。

このため、太良高校においては、国委託事業に取り組み、発達障害のある生徒がインターンシップを実施する際に、学生支援員を配置している。学生支援員がお手本となり、生徒は様々な場面での他人との接し方や取るべき態度について学び、社会人としての基本的なマナーやルールを身につけることができている。

イ T-ライセンスの取組

卒業後に社会で自立していくために必要な知識（一般教養）と技能（対人スキル等）を段階的に取得していくことを目的として、3年次で実施している取組である。具体的には、学科と面接の指導が中心であるが、進学や就職試験への対策であるとともに、社会で自立することを目的としている。

② 卒業後の進路状況

ア 進路状況の概要

高校卒業後の進路を保障することは、高校が果たすべき役割の中でも特に重要なものである。今年度の太良高校の卒業生は卒業前に全員の進路が決定している。

全体としては、進学 45.0%、就職 55.0%であり、例年と大きな変化はないが、募集枠別に見ると全県募集枠は進学が多く西部学区枠は就職が多い。また、大学進学者が増えている。

【平成20年度～平成24年度卒業者の進路状況】

(単位: %)

| 普通科 | | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 |
|------------------|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | H21.3卒 | H22.3卒 | H23.3卒 | H24.3卒 | H25.3卒 |
| 太良 高校 | 進学 | 32.4 | 44.8 | 37.3 | 42.4 | 42.2 |
| | うち大学 | 4.1 | 5.2 | 0.0 | 5.1 | 0.0 |
| | 就職 | 56.8 | 50.0 | 59.7 | 52.5 | 48.9 |
| | その他 | 10.8 | 5.2 | 3.0 | 5.1 | 8.9 |
| 佐賀県 普通科 全体 | 進学 | 89.6 | 90.3 | 89.8 | 90.1 | 90.9 |
| | うち大学 | 62.6 | 63.3 | 62.4 | 61.0 | 61.2 |
| | 就職 | 8.1 | 6.6 | 8.0 | 7.3 | 7.1 |
| | その他 | 2.4 | 3.1 | 2.2 | 2.6 | 2.0 |

【平成25年度卒業者の進路状況】

(単位: %)

| | | 全県 募集枠 | 西部 学区枠 | 太良高校 全体 |
|----|------|-----------|-----------|------------|
| | | H26.3卒 | H26.3卒 | H26.3卒 |
| 太良 | 進学 | 56.3 | 37.5 | 45.0 |
| | うち大学 | 31.3 | 4.2 | 15.0 |
| | 就職 | 43.8 | 62.5 | 55.0 |
| | その他 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

イ 進学状況

4年制大学への進学者が増え、全県募集枠から国立大学の進学者も11年ぶりに出た。この生徒は他の高校を中途退学して、太良高校で学び直した生徒である。また、留学することが決まっている生徒もいるが、この生徒は転学して太良町に下宿していた生徒で、発達障害であり、不登校経験者でもある。

ウ 就職状況

キャリア教育の研究を重ね、就労移行支援事業等も活用しながら、全員内定を得ており、進路先が決定していない「その他」の生徒が0%である。

(2) 成果と課題

① 成果

生徒達の将来的な自立の前提となる、進路保障という目標については達成することができた。このことは高く評価できるものとする。

また、進路指導については、これまでの太良高校の指導に加え、ソーシャルスキルモデラーの試験的配置など新しい試みも取り入れた結果が、今回の100%進路決定という成果につながったと考える。

② 課題

まだ1回目の卒業生が出ただけであり、今後も卒業後の進路について注視していく必要がある。

4 多様な学び

(1) 現状

① 単位制

太良高校では、再編にあわせ、単位制を導入し、80を超える科目の中から、一人ひとりの適性・進路に応じたカリキュラムで学ぶことができる。自分にあった科目を自ら選ぶことで、主体的に学ぶようになるとともに、将来像が明確になり、進路意識の向上にもつながる。

② 多様な単位認定

ボランティア活動やインターンシップ、各種検定など技能審査の成果やスポーツ又は文化に関する活動など、学校外の活動による単位認定ができる。

再編後、この方法を活用して、単位を修得した生徒の延べ数は

平成 23 年度： 7 人

平成 24 年度： 78 人

平成 25 年度： 154 人

となっており、特に検定による単位認定は、検定の種類も単位を修得した生徒数も年々増えている。

(2) 成果と課題

① 成果

単位制により、個々に応じた主体的な学びが可能になったことも、進路決定 100%につながったと考える。また、検定を利用した単位認定により、学習意欲が向上したり、生徒が自信を持てるようになったりするという効果も見られた。

② 課題

小規模校における単位制は、一人の教員が様々な科目を担当しなければならないなど、教員にとっては負担も大きいので、今後の取組を引き続き検証する必要がある。

5 地域との連携

(1) 現状

地域との連携については、太良高校の学校経営等に地域の意見等を取り入れ、生徒の教育を地域が支援する学校とするため、「佐賀県立太良高等学校地域教育連絡協議会」を設置し、年に 2～3 回会議を開催し、意見交換、協議等を行っている。

特に体験学習と通学支援としてのホームステイ受入れについては、地域の協力なしには成立しないものである。

① 体験学習

再編後の太良高校においては、生徒たちが自然の偉大さや美しさなどに出会ったり、現実の社会に直面し様々な人と関わったりすることで、自らの人間性を豊かにするため、地域の協力を得て、週 3 時間の体験学習を実施している。

受講した生徒のレポートを見ても、仕事の大変さや責任を実感するとともに働く楽しさに気付いたり、受入先の方々との関わりの中で、緊張しながらも、人の役に立てる喜びを感じたりしている様子が伺える。

受入先の事業所は、毎週決まった時間帯に来る生徒たちのために体験学習用の作業を準備する必要がある、負担感もあるにもかかわらず、再編以来ずっと体験学習を受け入れていただいている事業所もある。

これまでの体験学習の状況は次のとおりである。

| H23 年度 金曜日 4, 5, 6 限目 (郊外体験学習) | Aグループ 介護・福祉 | Bグループ 園芸 | Cグループ 産業 |
|---|----------------|-------------|-------------|
| | 受講生徒 4 名 | 受講生徒 5 名 | 受講生徒 4 名 |
| 担当者 | 南 一也 (公民) | 中尾暢介 (保体) | 山田英吾 (保体) |
| 4/22~7/15 | 太良の里 | 山口園芸 | 田嶋畜産 |
| 9/9~11/25 | 光風荘 | 原園芸 | 太良町森林組合 |
| 12/9~3/16 | ふるさとの森 | 田島柑橘園 | 有明海漁連たら支所 |

| H24 年度 金曜日 4, 5, 6 限目 (郊外体験学習) | Aグループ 介護・福祉 | Bグループ 園芸・農業 | Cグループ 食品加工 | Dグループ 林業・漁業 |
|---|----------------|----------------|---------------|----------------|
| | 受講生徒 4 名 | 受講生徒 4 名 | 受講生徒 4 名 | 受講生徒 4 名 |
| 担当者 | 堀田順子 (英語) | 山田英吾 (保体) | 平川宣明 (地歴) | 南 一也 (公民) |
| 4/20~9/28 | 太良の里 | 原園芸 | 田嶋畜産 | 太良町森林組合 |
| 10/12~3/8 | 光風荘 | 山口園芸 | 田島柑橘園 | 漁協たら支店 |

| H25 年度 金曜日 4, 5, 6 限目 (郊外体験学習) | Aグループ 福祉 | Bグループ 園芸 | Cグループ 農業 | Dグループ 林業・漁業 |
|---|------------------|-------------|--------------|----------------|
| | 受講生徒 4 名 | 受講生徒 4 名 | 受講生徒 4 名 | 受講生徒 4 名 |
| 担当者 | 北川直子 (英語) | 野口貴史 (理科) | 古川佐知子 (地歴) | 南 一也 (公民) |
| 4/19~9/27 | グループホーム さんほうす | 田中バラ園 | 観光農園 葉隠工房 | 太良町森林組合 |
| 10/4~3/7 | 光風荘 | 山口園芸 | 田島柑橘園 | 漁協たら支店 |

② 通学支援

通学困難な地域の生徒が町内にホームステイを希望する場合、太良町の教育委員会が窓口になり、受入先の紹介など支援することとなっており、また、ホームステイの費用の半額を太良町が補助することとなっている。平成24年度に全県募集枠に編入学した生徒が1人、この支援を受けており、この3月に太良高校を卒業した。

平成25年度のホームステイについては、太良町に問い合わせは数件あったが、最終的に希望者はいなかった。

なお、通学に対する支援については、この他に、太良高校の始業時間を他の高校よりも1時間程度遅らせており、このことにより広域から通学ができるようになった。

平成25年度の生徒の現住所は下表のとおりである。

| 学区 | 学年別 | 1年 | | | 2年 | | | 3年 | | | 総計 | | |
|-------|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|-----|----|
| | 性別 | 男 | 女 | 小計 | 男 | 女 | 小計 | 男 | 女 | 小計 | 男 | 女 | 合計 |
| 東部 | 鳥栖市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 神崎市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 吉野ヶ里町 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | 基山町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 上峰町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | みやき町 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | 東部学区計 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 中部 | 佐賀市 | 4 | 2 | 6 | 5 | 1 | 6 | 5 | 0 | 5 | 14 | 3 | 17 |
| | 多久市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 小城市 | 2 | 2 | 4 | 2 | 0 | 2 | 1 | 0 | 1 | 5 | 2 | 7 |
| | 中部学区計 | 6 | 4 | 10 | 7 | 1 | 8 | 6 | 0 | 6 | 19 | 5 | 24 |
| 北部 | 唐津市 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| | 玄海町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 北部学区計 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| 西部 | 伊万里市 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | 武雄市 | 0 | 3 | 3 | 2 | 1 | 3 | 0 | 2 | 2 | 2 | 6 | 8 |
| | 鹿島市 | 8 | 13 | 21 | 14 | 14 | 28 | 6 | 5 | 11 | 28 | 32 | 60 |
| | 嬉野市 | 9 | 4 | 13 | 6 | 4 | 10 | 2 | 0 | 2 | 17 | 8 | 25 |
| | 有田町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 大町町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| | 江北町 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 2 | 2 | 0 | 2 | 3 | 2 | 5 |
| | 白石町 | 3 | 4 | 7 | 3 | 4 | 7 | 5 | 2 | 7 | 11 | 10 | 21 |
| | 太良町 | 11 | 5 | 16 | 6 | 2 | 8 | 6 | 6 | 12 | 23 | 13 | 36 |
| 西部学区計 | 32 | 29 | 61 | 32 | 27 | 59 | 21 | 16 | 37 | 85 | 72 | 157 | |
| 県計 | 41 | 33 | 74 | 39 | 29 | 68 | 27 | 16 | 43 | 107 | 78 | 185 | |

(2) 成果と課題

① 成果

- 体験学習に対する受入れ事業所等の評価は、概ね好評であり、太良高校の取組に対して理解を深めてもらうきっかけとなっている。
- 体験学習や通学支援はもとより、就職の面接指導等についても、太良高校の教育に、地域の協力は欠かせない。また、学校も、町の清掃活動やイベントにボランティアとして積極的に参加するなど、地域とのつながりを深めようとしており、うまく連携ができているといえる。
- 始業時間を遅らせたことで、生徒はそれほど無理のない時間に自宅を出発して始業に間に合うようになり、通学範囲は広がった。

② 課題

- 体験学習については、希望する生徒をなるべく多く受講させられるように、受入先を増やしたり、受講可能な人数を増やしたりなどの工夫が必要である。ただ、受入先が多いと担当職員の配置数も増やす必要があり、小規模校ゆえの難しさがある。
- 今後も、地域教育連絡協議会といった太良町との協議の場も利用しながら、更に理解を深める工夫も必要である。
- 遠くから通学をしている生徒もいることから、太良高校と同様の取組を他地区に全日制高校へ展開することについても検討する必要がある。

IV 検証のまとめ

太良高校の再編によって、中学生の進路状況に部分的な変化が見られるようになった。これまで中学時の欠席日数が多すぎて、公立の全日制高校をあきらめていたような生徒に対し、教育機会の拡大を図るという当初の目的は達成できていると考える。また、発達障害のある生徒についても、一定数の生徒が入学してくるようになったことから、評価できると考える。

しかし、更に教育機会の拡大を図るためには、発達障害のある生徒に対しては、太良高校の教育の成果を他校にも広めることや、高校中途退学者に対しては、定時制や通信制での対応についても検討する必要があると思われる。

高校卒業後の進路については、まず、全員が進路を決定することができたことを高く評価したい。就職分野で、一般企業への就職、あるいは福祉関係機関と連携した福祉的就労、進学分野で、11年ぶりの国立大学合格や海外留学など、生徒の能力や適性に合った進路の実現ができたものとする。ICTの利活用、学び直しを可能にする柔軟なカリキュラム、多様な単位認定、少人数学級編制等によって、きめ細かな教育を行い、学校全体で学力向上に努めたことにより、進路実績としては一定の成果を上げたのではないかと考える。特に、今回の太良高校の全県募集枠の結果は、人数的には少ないが、不登校経験や発達障害のある生徒及び高校中途退学者の自立に向けた指導の実践例として大いに参考になるものとする。

また、地域との連携は、太良高校の教育に不可欠なものであり、太良町における体験学習は生徒の人間的な成長を促すものとなっている。ボランティア活動等、地域の方々との交流を通じて、生徒達が挨拶や礼儀など、望ましい生活態度を身につけていったことも大きな成果であった。

このようなことから、太良高校再編にあたっての所期の目的としていた

- ・ 生徒全員が進路実現を図ること
- ・ 望ましい生活習慣や学習態度を身につけさせること
- ・ 社会で自立するために必要な社会性を身につけさせること

については、達成できたのではないかと考える。本年度の実績は高く評価したい。

しかし、まだ再編後3年目であり、今回の検証で見えてきた課題もある。今回の検証報告は、再編後の太良高校の教育を受けた初めての卒業生を中心としたものであることから、「検証報告Ⅰ」と掲げたが、検証を確かなものにするためにも、引き続きデータを蓄積し、太良高校再編の成果と課題について、検証を継続する必要がある。